

教育研究紀要の発刊によせて

ファカルティー・ディベロップメント（Faculty Development, FD）とは「大学教員の教育能力を高めるための実践的方法のことであり、大学の授業改革のための組織的な取り組み方法」を指し、教職課程でもこのFDが強く求められている。平成25年度には教職課程認定大学のうち32大学について、課程認定時の水準を維持し、その向上に努めているかどうかを確認することを目的として、文科省の現地視察が行われた。その結果、先進的な実践例が報告されている一方で、「総括的事項」では、必要な専任教員数を確保できていない事例や、教科に関する科目について、法令に定める内容を適切に扱っていない事例が報告された。また、「個別的事項」では多くの指摘の中に、教職課程は教員免許状という資格を授与するための課程であることに鑑み、授業内容の扱いについて個々の教員に完全に委ねるのではなく、学生が授業等において必要な知識を身につけることができるように、授業内容及び授業方法に関するファカルティー・ディベロップメントを通じ、その質の向上に努めるべきことが挙げられている。

今回、スポーツ健康科学部の「教育研究紀要」の発刊はまさに、このFDを目指すものであり、東海学園大学の教職課程の質の向上に資することを目的としている。この「教育研究紀要」は、①教科に関する科目では、学生に専門的知識及び技能を習得させるためにどのような工夫をしているのか、また、②教職に関する科目では、学習指導要領に即して、実際に指導する場面を想定して、学習指導案の編成、教材研究などをどう組み入れて、学生に実践的な指導力を身につけさせるためにどう工夫しているか、の証拠（エビデンス）となると言える。

文科省は教職課程の質的水準の向上について、「教員養成については、これまで、課程認定大学の一部の担当教員のみが教員養成に携わり、特に、教科に関する科目の担当教員の教員養成に対する意識が低いなど、全学的な指導体制の構築という点で、課題が少なくなかった。今後は、すべての教員が教員養成に携わっているという自覚を持ち、各大学の教員養成に対する理念や基本方針に基づき指導を行うことにより、大学全体としての組織的な指導体制を整備することが重要である」と指摘している。

今回の「教育研究紀要」第一号に16編の論文が掲載されたことは極めて喜ばしいことであり、スポーツ健康科学部の教員だけではなく、教育学部の教員からも投稿していただいたことは極めて意味があることと思う。本誌が東海学園大学の教員養成の充実に寄与できることを期待する。

スポーツ健康科学部長
村松常司